

福島復興子ども教室 報告書 2024 年度（8 月期）

教育学部 4 年次生 竹下早紀，豊福絢，取口七晴，二宮駿
同 3 年次生 今村祐太，佐藤涼香

【参加者】

- 川内小中学園・川内村教育委員会 6 年生 7 名，7 年生 3 名，教育長，校長，7 年生担任教諭，6 年生担任教諭，養護教諭、主幹兼指導主事 計 16 名
- 長崎大学関係 教育学研究科・教授 星野由雅
福島未来創造支援研究センター長・教授 高村昇
アドミッションセンター・助教 當山明華
教育学部長・教育学研究科長 藤本登
教育学部生（上記 6 名）

【場所】

- 長崎市（長崎大学文教キャンパス，長崎大学教育学附属小学校，長崎市役所，爆心地公園・平和公園，出島メッセ，浦上天主堂，如己堂・永井隆記念館，山王神社，グラバー園，城山小学校）

8 月 7 日（水）

この日、川内村の一行は 15 時頃、長崎大学に到着予定であったが航空機の機材トラブルのため予定の便が欠航となり、急遽新幹線を乗り継いで仙台から福岡へ、福岡からは貸切バスで日付が変わってから長崎に入ったそうです。初日のスケジュールの一部は 2 日目に移動し、残念ながら原爆資料館の見学は学生の作成した資料配布のみとなりました。

8 月 8 日（木）

2 日目の朝、一行は長崎市長表敬に向かいました。昨年は台風により長崎に来られなかったのが 2 年ぶりの長崎研修となりましたが、鈴木長崎市長からは歓迎する旨のご挨拶をいただきました。飛行機の欠航により、急遽福島から新幹線とバスを乗り継いで長崎まで来たため少し疲れている様子でしたが、子どもたちは元気よく連詩を披露し、市長からお褒めの言葉をいただきました。また、ここ長崎の平和公園や城山小学校遺構の研修で学んだことを川内村の復興に活かしてください、と励ましのお言葉をいただきました。



図 1 連詩を披露している様子

市長表敬を終えた後、一行は爆心地公園と平和公園へ向かいました。爆心地公園では、原爆落下中心地の石碑、被爆した浦上天主堂の壁、被爆当時の地層を見学しました。強い爆風により表面が焦げている様子や、破壊された瓦や食器などを見学することで、原子爆弾が非常に恐ろしいものであるということを実感したようでした。



図2 市長表敬を終えて記念撮影

爆心地公園を訪れた後は、平和公園を訪れました。公園内では、平和の泉や平和の鐘、そして平和祈念像を見学しました。平和の泉では、被爆当時9歳の少女の言葉が刻まれた碑を読み、熱さに苦しみながらも水を求めることなく亡くなった被爆者に対し、絶えることのない水を捧げるためにこの泉が作られたことを学びました。その後、長崎の鐘の足元にある原爆殉難者之碑に水をかけてお祈りをしたり、平和祈念像では、右手で天を指し、左手を水平に伸ばし、目をつむる像の姿を目の当たりにし、その表情や姿勢に込められた平和への願いを感じ取っていました。



図3 原爆落下中心地の石碑見学



図4 被爆当時の地層の様子

午後は、フラワーメイトで昼食を取ったのちに、色素増感太陽電池の製作実験が行われました。川内村産のブドウの皮を1粒ずつ剥き、漬す作業（図5）を経てアントシアニン色素を抽出し、電池づくりを行いました。ブドウの皮むきや電極を鉛筆で塗る作業などで苦戦していた班もありましたが、無事すべての班が電池を作ることになりました。電子オルゴールを鳴らすことができました。太陽光に当たるときと白熱灯に当たるときでは太陽光のほうがオルゴールの音が綺麗に鳴っており、子どもたちも嬉しそうな表情をしていました。



図5 色素増感太陽電池の製作の様子

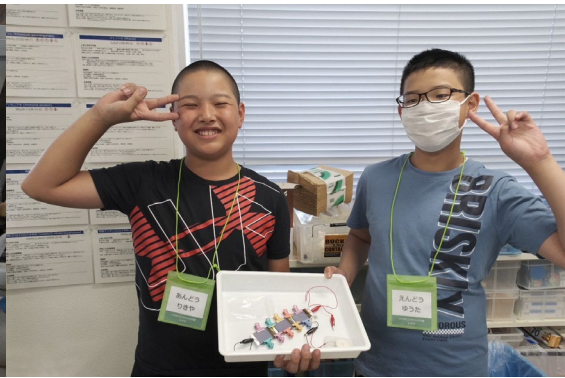


図6 製作した色素増感太陽電池

その後、1 日目にする予定であった対面式と長崎大学の学長表敬訪問が行われました。対面式ではまず、長崎大学の教職員・学生、川内小中学園の子どもたち・教職員、教育委員会の方の順で自己紹介を行いました。この時に少し打ち解け、関係がさらに深まった感じがしました。その後、川内村のお土産をいただき、長崎からは大学のグッズを贈りました。その際に浮かんだ笑顔は福島で築いた関係があってこそその笑顔であると感じました。学長表敬訪問では、永安学長のほか、福島未来創造支援研究センター長の高村教授も交えて懇談を行いました。子どもたちは、長崎市長表敬訪問同様に連詩の披露を行い、懇談の出席者全員から熱い拍手が送られました。



図7 自己紹介の様子



図8 記念品の贈呈

2日目の最後には、第25代高校生平和大使・安野美乃里さんによる講話が行われ、高校生平和大使の活動について紹介してくれました。ニューヨークの国連本部で開かれた核兵器禁止条約第2回締約国会議に参加された体験談について詳しく話をきくことができました。川内村の子どもたちは安野さんの話を真剣な眼差しで聞いていました。安野さんの平和に対する強い思いを感じることができ、子どもたちや先生方からの質問にも丁寧に答えてくれました。平和の大切さ、平和のために自分たちができることについて考えるきっかけとなるような講演でした。



図9 安野さんの講演の様子

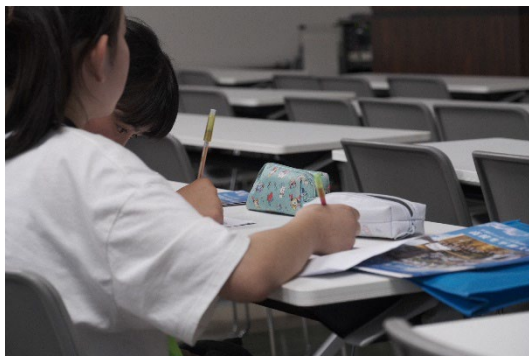


図10 真剣な眼差しで話を聞く様子

8月9日（金）

3日目は、6月と7月に二次元メタバースを利用してオンライン交流学习を行った長崎大学教育学部附属小学校5・6年A組との対面での平和交流学习の日です。この日は長崎が祈りに包まれる日です。川内村の子どもたちは、朝8時30分頃に附属小学校を訪れ、挨拶と簡単な自己紹介を行った後、平和交流学习を行いました。川内村の子どもたちは東日本大震災の被災から現在までの復興の歴史を、長崎の子どもたちは原爆の被爆の様子と復興した歴史をそれぞれスライドを活用して発表しました。また、子どもたちは私たちに何ができるのかということをも身近なものから考えており、二度と繰り返してはいけない歴史を風化させないように考えていました。その後、お互いに疑問に思ったこと、感じたこと、もっと知りたいことなどをグループに分かれ輪を作り交流しました。この時に以前オンラインで交流した際の疑問なども含め話し合っていました。交流が終わりお別れの時間が来ると子どもたちはハイタッチや握手、「ありがとう、またね。」という言葉を掛け合っていました。



図 11 発表の様子



図 12 子どもたちの集合写真

次に、出島メッセに移動し、平和祈念式典の中継を視聴しました。代表生徒 1 名と引率の教員 1 名は平和祈念式典に参列しました。10 時 45 分からの式典は原爆死没者名奉安、式辞、献水と静かに式典は進行し、その様子を子どもたちは、静かに見守っていました。11 時 2 分には 1 分間の黙とうを行い、原爆犠牲者のご冥福をお祈りしました。子どもたちは、長崎の人たちの原爆で亡くなった方々への哀悼の思い、平和を希求する想い、原爆の廃絶を願う想いをしっかりと受け止めているようでした。

午後は、アザレアで昼食を取ったのちに、浦上天主堂、如己堂、永井隆記念館、山王神社、城山小学校を見学しました。浦上天主堂では、天主堂の中を見学することができ、教会の雰囲気を感じることができました。多くの子どもたちがマリア像に興味を示していました。また、教会の外に重さ 50 t の鐘楼が爆風によって飛ばされたことに驚いていました。



図 13 浦上天主堂見学の様子

如己堂の見学では、たった 2 畳のスペースに 3 人で住んでいたということに驚きの声が上がっていました。隣接する永井隆記念館では永井隆氏の生涯について知ることができました。映像を鑑賞することでより永井氏の人生や平和に対する思いについて感じることができました。永井隆記念館の 2 階にある図書館で本の閲覧、休憩をとった後山王神社に移動しました。山王神社では最初に 1 本柱鳥居を訪れました。「爆風によって倒されたもう片方の鳥居はどうなったのだろう？」と気になっている子どもたちが多くいました。もう片方の鳥居は近くのスペースに展示されており、じっくりと観察していました。被爆クスノキに空いている穴に興味を示し、実際に穴の中を覗いて、当時のまま焼けた跡や飛ばされてきた小石が中に入っているのを見て驚いていました。実際に建物や、残されたものを見学することで原爆の恐ろしさや、当時の状況について直に感じることができていました。



図 14 如己堂の広さに驚く様子



図 15 被爆クスノキに空いた穴を覗く様子

城山小学校では、平和公園の訪問後、次に長崎市立城山小学校に向かいました。この学校は、77 年前に原爆の被爆を受け、1,400 名余りの児童と 28 名の教職員が命を落とした悲しい歴史を持っています。しかし、城山小学校では、被爆を受けた校舎の一部を子どもたちの発案で「城山小平和祈念館」として残し、多くの修学旅行生や一般の方が訪れる場所となっています。子どもたちは当時の小学生の気持ちを持ち、大人は当時の教職員の気持ちを想像しながら、当時のまま残された校舎の一部や、当時の様子を描いた絵や言葉をじっくりと読んでいました。



図 16 城山小平和祈念館見学の様子

最後に、グラバー園に同行し、案内をしました。グラバー園では国指定重要文化財であるグラバー住宅などの木造洋風建築や、日本最初期のアスファルト道路などを見学し、江戸時代から明治にかけての長崎と外国との交易の歴史を学びました。またグラバー園から復興した長崎の街を見て、二度と被爆の悲劇を繰り返してはならないと考えることができたのではないかと思います。



図 17 グラバー園見学の様子



図 18 復興した長崎の街をバックに

川内村の一行は、このグラバー園での研修を終えた後、長崎大学関係者に見送られながら、バスでホテルに戻り、翌日、無事川内村への帰路につきました。

飛行機の欠航により、研修期間が減り、過密なスケジュールとなってしまいましたが、皆しっかりと記録を取り学び取ろうという姿勢を持ち続けた研修でした。長崎の原爆被爆前の街の様子や被爆後の様子、復興を果たした街、同年代との子どもたちとの平和学習、高校生平和大使のお話などを聞くことで、原子爆弾の恐ろしさ、平和の大切さを知ることができ、平和を守るために自分たちには何ができるのか考えることができたのではないかと思います。この研修の成果を川内村復興の取り組みに活かしてくれることを期待しています。

監修 教育学研究科 星野 由雅